保　健　体　育

1　保健体育科における授業改善等の成果と課題

保健体育科では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成すること」を目指して授業改善が進められている。

各学校では、主体的・対話的で深い学びの実現や、指導と評価の一体化を意識した単元計画の作成、１人１台端末を活用した学習活動の充実など、多様な授業実践が行われている一方で、育成を目指す資質・能力をより明確にした単元構想や評価方法の工夫、ICT や生成 AI を効果的に活用した探究的な学びの充実などに課題が見られる。

北海道教育委員会では、各教科等教育課程研究協議会や北海道高等学校教育課程研究協議会、学校訪問等を実施するとともに、各種研修会や、各管内における教科研修会等を通して、次のような教育課程実施上の成果と課題を把握した。

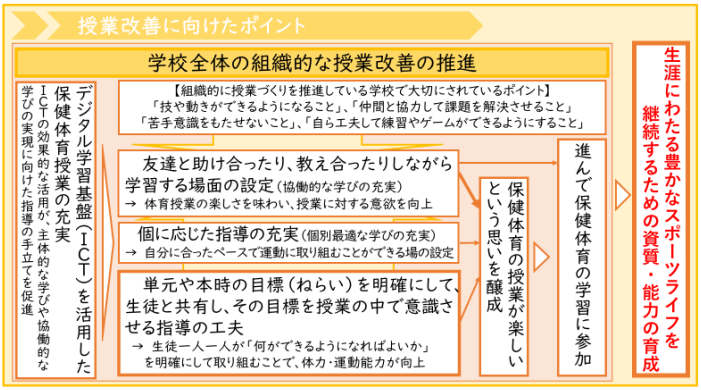


図１　授業改善に向けたポイント

【参考：令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査北海道版結果報告書（北海道教育委員会）】

	成果	課題
全体	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について、学校全体で組織的に推進する学校が増えている。 ・各種研究協議会を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組が進められている。 ・生徒が、主体的に活動ができるよう、心理的安全性を担保した授業づくりが進められている。	・習得した知識を現実の事象と関連付けて理解し、概念としての知識の習得や深く意味理解をさせることに課題がある授業が見られる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、校内における教員間の認識の差がある。 ・生徒を主語にした授業の在り方について、校内で一層研鑽する必要性がある。
保健体育科	・単元の目標、評価規準及び毎時間の学習課題を明確にするなど、単元全体を見通した授業づくりが進められている。 ・ICT を活用した動画撮影・分析、振り返り、学習記録の蓄積などにより、生徒の学習状況を把握しながら指導の改善が図られている。 ・体育における技能の分析やゲームの中での課題解決、並びに保健における健康課題についての意見交流など、生徒同士が対話を通して考えを深める協働的な学びが定着しつつある。 ・観点別学習状況の評価が適切に実施され、評価規準や評価場面を整理した単元計画を作成する学校が増えるなど、「指導と評価の一体化」を意識した授業改善が進められている。 ・安全管理に配慮した授業改善が進められており、熱中症対策や事故防止、健康観察の徹底など、安全・安心な学習環境づくりに対する意識が高まっている。	・習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断・表現」の観点での活動が不十分な場合があるため、単元のゴールを明確にし、ゴールから逆算して学習活動を構想するなどの授業づくりを進める必要がある。 ・交流すること自体が目的となり、対話が思考の広がりや深化につながっていない場合があるため、教師の発問や課題設定を工夫し、思考を促す学習活動の充実を図る必要がある。 ・ICTを活用すること自体が目的化し、学びの質の向上につながっていない場合があるため、「体育や保健の見方・考え方」を働かせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためのICTの効果的な活用方法を検討する必要がある。 ・「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点での評価方法について、ワークシートや振り返りのみで評価している例や、評価場面の設定が多い例が見られるため、評価場面を精選するとともに、パフォーマンス課題や学習過程を適切に評価する工夫が必要である。 ・個に応じた指導や共生の視点を踏まえた授業改善を一層充実させるため、体力差や技能差、障がいの有無、男女共習など、多様な生徒が互いを尊重しながら学ぶことができる授業づくりを一層促進する必要がある。

2　学習指導及び学習評価の改善・充実

前述の課題を解決し、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するため、保健体育科における学習指導及び学習評価について、次の２点を示す。

(1) 育成すべき資質・能力の３つの柱と対応する科目の目標の再確認

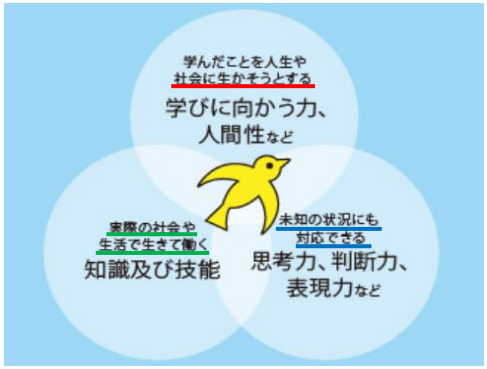


図２「平成 29・30・31 年改訂学習指導要領周知・広報ツール（平成 31 年３月文部科学省）」

○　学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

【体育】運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

【保健】生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

○　実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得

【体育】運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

【保健】個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

○　未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

【体育】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

【保健】健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

(2) 単元を見通した学習指導及び学習評価の工夫

評価に当たっては、教師が生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切であることから、「単元の指導と評価の計画」の作成を通し、単元を通して３観点の評価のバランスを考慮しつつ、できるだけ１単位時間で行う評価の観点を絞り、重点化する必要がある。

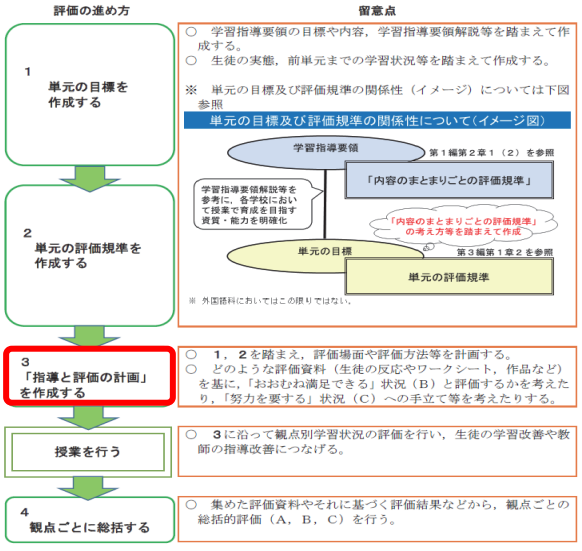


図３「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（令和３年８月　国立教育政策研究所）

例えば、「思考・判断・表現」を評価するためには、授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計することが求められる。体育においては、課題発見、練習計画の立案やルールの工夫などについてのグループでの話合いを、観察や学習カードの記入状況等を用いて評価することが考えられる。保健においては、ペーパーテストのみならず、ロールプレイング、ブレインストーミング、ディスカッション及び心肺蘇生法等の実習などの多様な活動を取り入れるとともに、ICT を活用して、生徒の思考の変容を記録したり、成果物をまとめたポートフォリオを用いたりするなどの評価方法の工夫が考えられる。

3　指導と評価の計画例

(1)「体育：球技　ネット型（バドミントン）」〔入学年次の次の年次以降〕

ア　単元の目標

(ｱ) バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

　また、状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。

(ｲ) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(ｳ) バドミントンに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○　知識 ①バドミントンでは、局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○　技能 ①シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ②ペアと連携してフロントコートでシャトルをカットしたり、打ち返したりすることができる。	①チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。 ②チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ③チームでの学習で、状況に応じて自己の役割を提案している。 ④体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともにバドミントンを楽しむための調整の仕方を見付けている。 ⑤バドミントンの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。	①バドミントンの学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

ウ　単元の指導と評価の計画（15 時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 「概ね満足できる」状況（B）
第一次 【２時間】	探究	【ねらい】 ・入学年次までの学習で身に付けた知識及び技能を基に、チームや自己の課題を発見し、それを解決するための練習の計画を立てることができるようにする。 ・チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができるようにする。 【学習活動】 ・ICT を活用しながらチームや自己の課題を確認・共有し、その解決に向けた効果的な練習方法を考え、実践する。	思 ① ②		・チームや自己の課題を発見し、それを解決するための適切な練習の計画を立てている。（思①） ・チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。（思②）
第二次 【４時間】	習得・探究	【ねらい】 ・バドミントンでは、局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、具体例を挙げることができるようにする。 ・シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができるようにする。 ・チームでの学習で、状況に応じて自己の役割を提案できるようにする。	知 ① 技 ① 思 ③	○	・バドミントンの技術や戦術、作戦について、その名称と攻防の向上につながる動きのポイントを挙げ、安全で合理的、計画的な練習方法について、具体例を挙げて説明している。（知①） ・シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。（技①）

Google スプレッドシートを活用して、自己やチームの課題を共有する。

ICT を活用して練習動画等を撮影し、チームや自己の課題の発見や、その解決に向けた練習方法の在り方を探究する。

		【学習活動】 ・前時までに探究した練習方法を繰り返し実践し、その効果や課題を確かめる。 ・ICT を活用して得られた情報をもとにチームや自己の課題解決に向けた探究活動を行う。 ・課題解決に必要な練習において、自己の役割を探究して実践する。			・チームでの学習で、状況に応じて自己の役割を他者に提案している。（思③）
第三次 【３時間】	活用	【ねらい】 ・バドミントンの学習に、主体的に取り組むことができるようにする。 ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。 【学習活動】 ・前時までの学習を生かして簡易ゲームを行い、チームや自己の成果と課題を書き出す。	主 ① ②		・バドミントンの学習に主体的に取り組もうとしている。（主①） ・チーム内で課題を指摘するなど互いに助け合い高め合おうとしている。（主②）
第四次 【３時間】	探究・習得	【ねらい】 ・競技会で、ゲームのルールや運営の仕方、役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方について、具体例を挙げることができるようにする。 ・ペアと連携し、ゲームの状況に応じて、フロントコートでシャトルをカットしたり、打ち返したりすることができるようにする。 【学習活動】 ・チーム内で簡易ゲームを実践し、ルール、運営の仕方、役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等について具体例を挙げ、他チームと共有するとともに、全体で話合う。 ・チーム内でダブルスの練習を実践し、ペアの連携に関する成果や課題を見付け、課題解決に向けて探究する。	知 ② 技 ②	○	・競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて学習した具体例を挙げている。（知②） ・ペアと連携してフロントコートでシャトルをカットしたり、打ち返したりすることができる。（技②）
第五次 【３時間】	活用	【ねらい】 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえ、仲間とともにバドミントンを楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。 ・バドミントンの学習の成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの関わり方を見付け、生涯にわたって運動を楽しむことができるようにする。 ・危険を予測し、回避行動をとるなど、安全を確保することができるようにする。 【学習活動】 ・前時までに考案したルール等を活用し、他チームと団体戦形式によるゲームを行い、バドミントンを楽しむための調整の仕方を工夫する。 ・「する、みる、支える、知る」ことについて自己の関わり方を考える。 ・安全なゲーム運営に努める。	思 ④ ⑤ 主 ③	○	・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともにバドミントンを楽しむための調整の仕方を見付けている。（思④） ・バドミントンの学習の成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。（思⑤） ・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。（主③）

Google スプレッドシートを活用し、実践した練習方法の成果と課題を共有する。

Google スプレッドシートを活用して、他チームと具体例を共有する。

ICT を活用して撮影した動画を繰り返し再生したり、スロー再生したりすることで、自他の動きを客観的に捉える。

Google スプレッドシートを活用して、工夫したことや思考したことを論理的にまとめる。

エ　学習指導案（２時間目／15 時間中）

1　本時の目標

(1) チームや自己の課題を話し合い、具体的にまとめることができる。

(2) 生成 AI を活用して効果的な練習方法を探究し、チームの練習計画を立案して実践することができる。

2　本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (7分)	○　前時の確認	・前時までに探究した練習方法や撮影した動画を通して、チームや自己の課題を確かめる。	
展開 (36分)	【問１】攻防におけるチームや自己の課題と、目標とする動作はどのようなものか。		
	○　自己やチームの課題と目標の整理	・前時に書き出した自己やチームの課題を攻防別に整理し、目標の動きと併せてGoogle スプレッドシートにまとめる。	・Google スプレッドシートに書き出された内容についてチームで共有し、課題と目標を整理させる。

	○　課題の解決方法の確認	・Google スプレッドシートにまとめた内容をもとに、生成 AI を活用して練習方法を調べる。	・『生成 AI 利活用ガイドブック』（各学校等が作成）を参照する。

【プロンプトの例】
高校の体育の授業でバドミントンに取り組んでいます。Ａさんはクリアーやスマッシュが力強く、前方への移動も速いです。一方、ヘアピンを打った後に、相手から返球されると、後方への移動が間に合わず、返球が中途半端になってしまい、相手にスマッシュを決められたり、コートを左右に揺さぶられたりすることが課題です。この課題を解決することを目標としています。そのための練習方法を複数提案してください。

（出力結果のまとめ）

練習方法	内容	ねらい
①ヘアピン後の「戻り」を意識する練習	ヘアピンを打った後、すぐに後方へ移動できる位置まで戻る動作を繰り返す。シャトルは返球せず、動きに集中する。	ヘアピン後の構え直し・戻りの速さを高める
②ヘアピン→後方への返球練習	相手にヘアピンを返してもらい、Ａさんがヘアピンを打った後、相手から後方へ返球してもらう。Ａさんは後方へ移動してクリアー等で返球する。	前方から後方への切替えを身に付ける
③ヘアピン→後方＋左右への返球練習	ヘアピン後、相手が後方左右のどちらかへ返球。Ａさんはシャトルの方向を判断して移動し、返球する。	後方移動に加え、相手の返球への判断を高める
④２点・３点フットワーク	ネット前→後方→ネット前、またはネット前→後方右・左を連続して移動する。	前後・左右の切替えを速くする
⑤制限付きラリー	「ヘアピンを打った後は、相手は必ず後方へ返球する」などの条件を設定してラリーする。	課題となる場面を繰り返し経験する
⑥実戦に近いラリー	相手はヘアピン、クリアー、ドロップなどを使い分け、Ａさんは状況を判断して返球する。	相手の返球を予測し、適切に移動・返球する力を高める

【問２】チームや自己の課題を解決するための効果的な練習方法は、どのようなものがあるだろうか。

	○　課題解決に向けた整理と実践	・生成 AI で複数の練習方法を調べ、Google スプレッドシートに整理するとともに、それぞれの効果を予想する。 ・効果が高いと予想される３つの練習方法を選択し、実践する。 ・次の役割を分担し、一定時間ごとに交代しながら取り組む。 【役割分担】（例） ①練習をする役 ②指示出し・アドバイス役 ③入力・時間計測役 ・練習を実践する中で見られた動きの変容などを振り返り、成果と課題について、Google スプレッドシートにまとめる。 ・振り返りをチームで共有し、効果的な練習方法の在り方について、話し合う。 ・共有した成果や課題を基に、次時の練習方法を選択・改善し、自己の課題の解決に生かす。	・Google スプレッドシートの操作方法を具体的に指示する。 ・役割を分担し、練習を実践しているときだけではなく、他者の練習を観察して、動きの変容等を分析するよう指示する。 ・生徒の動きを確認し、安全管理を徹底する。 ・本時の取組について振り返らせ、次時以降の取組につなげる。

【指導上の工夫例】
○　生成 AI を活用し、本時の学習活動の流れについてまとめたイラストを作成する。また、作成したイラストを生徒に提示することで、教師の指示を視覚的にわかりやすく伝える。

まとめ（7分）	○次時への接続	・Google スプレッドシートに記入した内容を基に、本時の学びの成果と課題を確認する。 ・成果と課題を踏まえ、次時以降のねらいと学習の見通しを確認する。	・本時の学びと次時以降のねらいについて、理解させるとともに、見通しをもたせる。

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 生徒が主体的・協働的に課題を発見する学習の進め方

本時では、ICT を活用してチームや自己の動きを撮影し、動画を通して動きの特徴や課題を可視化するとともに、Google スプレッドシートを活用して練習方法や他者の考え、実践結果を共有することで、協働的に課題を発見し、その解決方法を探究できるよう工夫している。

(ｲ) 自己やチームの学びの変容を自覚できる学習評価の工夫

本時の「導入」では、前時の課題を確認して意識付けをさせるとともに、「展開」では、課題を踏まえた上で、効果的な解決方法について探究させている。さらに、「まとめ」では、共有した記録を基に本時の学びを振り返ることで成果と課題を明確化し、次時への見通しをもたせるよう工夫している。また、教師は、授業後に、チームで作成した Google スプレッドシートの記録を確認することにより、授業の前後におけるチームや自己の学びの変容を見取るとともに、自らの学習を調整しようとしているかを含めて評価することができるよう工夫している。

(2) 「保健：喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」〔入学年次〕の計画例

ア　単元の目標

(ｱ) 喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解することや、薬物の乱用は心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、その健康課題を防止するためには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解できるようにする。

(ｲ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、健康や安全に関する原則や概念に着目して整理したり、解決の方法を思考し、判断したりするとともに、それらを適切に表現することができるようにする。

(ｳ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などの話合いや意見交換などの学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①喫煙及び飲酒は、生活習慣病などの要因となり、心身の健康を損ねることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③喫煙、飲酒、薬物乱用を防止するには、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応などの対策が必要であることについて理解したことを言ったり書き出したりしている。	①喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、個人及び社会生活と関連付け、自他や社会の課題を発見するとともに、その解決方法を整理している。 ②喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析したり、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらについて話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明している。	①喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決に向けての学習に、主体的に取り組もうとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（５時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 「概ね満足できる」状況（B）
第一次 【１時間】	習得	【ねらい】 ・喫煙及び飲酒は、生活習慣病などの要因となり、心身の健康を損なうことから、健康被害について理解することができるようにする。 【学習活動】 ・喫煙及び飲酒をすることによる健康への影響について調べる。 ・生活習慣病の要因となることについて説明を聞き、ワークシートにまとめる。 ・喫煙及び飲酒における社会課題を整理し、発表する。	知 ①		・喫煙及び飲酒は、生活習慣病などの要因となることについて理解し、健康への影響について自分の言葉で発言したり、考えを書いたりしている。
第二次 【１時間】	習得	【ねらい】 ・薬物乱用は、心身の健康、社会の安全などに深刻な影響を及ぼすことから、健康被害について理解することができるようにする。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用を防止するには、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対策が必要であることについて理解することができるようにする。 【学習活動】 ・薬物乱用は、心身及び社会に影響を及ぼすという説明を聞き、ワークシートにまとめる。 ・薬物乱用における健康影響を整理し、発表する。	知 ② ③		・薬物の乱用が、依存症など心身の健康に悪影響を及ぼすとともに、犯罪や事故など社会の安全にも影響を及ぼすことを理解し、その危険性を説明したり、書いたりしている。 ・喫煙や飲酒による健康への影響、薬物乱用を防止するための規範意識の重要性及び薬物の所持・使用等に関する法的な規制について理解し、具体的に説明したり、書いたりしている。
第三次 【１時間】	活用	【ねらい】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、個人及び社会生活と関連付け、自他や社会の課題を発表するとともに、情報を収集し、その解決方法を整理することができるようにする。 【学習活動】 ・個人及び社会生活の課題解決に向けて自治体及び企業が行っている対策の情報を収集し、整理する。	思 ①	○	・喫煙、飲酒、薬物乱用による健康や社会生活への影響を調べ、自他や社会における課題を具体的に見いだし、その課題を解決するために必要な行動や取組について考え、まとめている。 Google スプレッドシートを活用して、個人や社会生活の課題を共有する。
第四次 【１時間】 「本時」	探究	【ねらい】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、我が国のこれまでの取組を踏まえ、個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析したり、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらについて話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができるようにする。 【学習活動】 ・我が国における喫煙、飲酒、薬物乱用防止の取組について、個人への働きかけと社会環境づくりの視点から整理する。 ・諸外国における喫煙、飲酒、薬物乱用防止の取組について情報を収集し、我が国の取組と比較することで、それぞれの共通点や相違点、特徴や課題について考察する。 ・我が国の取組は今後どうあるべきかまとめ、パワーポイント等を用いて次時の発表の準備をする。	思 ②	○	・喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、これまでの取組を踏まえ、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらについて話し合ったり、ノートなどに記述したりして論理的に道筋を立てて説明している。 Google スプレッドシートを活用して、我が国や諸外国の課題を書き出し共有する。 生成 AI を活用し、不足している課題等を確認するなど、生成 AI の回答を参考にする。
第五次 【１時間】	活用	【ねらい】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析したり、我が国と諸外国との違いについて説明することができるようにする。 【学習活動】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、我が国と諸外国の共通点や相違点、その背景や課題を整理し、自分の考えを根拠とともに発表する。 ・他者の発表を聞き、質問や意見を交流するとともに、自分の考えと比較して新たに気付いたことや考えが変化したことをワークシートにまとめる。 ・学習を振り返り、喫煙、飲酒、薬物乱用の防止に向けて、個人としてできることや社会に必要な取組について、さらに考えたい課題をまとめる。	主 ①	○	・習得した知識を活用して、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する自他や社会の課題を見い出し、解決に向けた取組を考えるとともに、我が国と諸外国の取組を比較し、その特徴や課題を考察する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・単元の振り返りシート 振り返りシートを活用して、質問及び意見から気付いたことを書き出すなど理解したことをまとめる。

エ　学習指導案（４時間目／５時間中）

1　本時の目標

喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、我が国のこれまでの取組を踏まえ、個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析したり、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらについて話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができるようにする。

2　本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 （５分）	○前時までの振り返り	・前時の学習内容（喫煙、飲酒、薬物乱用防止ついて、個別に情報収集したもの）について振り返る。 ・本時の流れについて理解する。	・本時の流れについて説明し、学習の見通しをもたせる。
展開 (40 分)	【問１】我が国と諸外国との健康問題の違いはどのようなものがあるのだろうか。 ○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、我が国と諸外国との違いについて調べまとめる。	・我が国と諸外国との健康問題について、Google スプレッドシートに意見をまとめ、生徒同士で共有する。 ・各グループにおいて、我が国と諸外国との健康問題について違いをまとめる。	・グループごとに Google スプレッドシートに課題を書き出し、整理させる。 グループごとに取り扱う内容を決め、課題を整理する。
	【問２】我が国の健康課題の解決に向けた方策については、今後どうあるべきだろう ○我が国の今後の課題解決に向けた取組を整理する。	・まとめた意見をもとに ICT を活用して、課題解決方策を検討する。 ・ICT を活用し、次時の発表のための資料を作成する。 ・生成 AI を活用し、我が国及び諸外国の喫煙、飲酒、薬物乱用の主な取組や特徴などを調べる。	・Google スプレッドシートに課題の解決方法を書き出し比較・検討・整理させる。 ・まとめた課題解決の方法を発表するため、パワーポイント等を用いて作成し、スライドの確認及び発表する際の役割分担などを決める。
まとめ （５分）	○本時の振り返りとまとめ	・グループ内で出された質問や意見から、気付いたことや参考にしたことをワークシートにまとめ、本時の学習を振り返る。	・振り返りでは、学習の前後で、気付いたことについてワークシートに記入させる。

【プロンプトの例】

・日本と諸外国【アメリカ、中国、ロシア、フランス、イギリス等】の喫煙、飲酒、薬物乱用の防止の取組について比較し、今後自分たちがより健康的な生活をするための生活習慣を教えてください。

（出力結果のまとめ）

国名	喫煙・飲酒・薬物乱用防止の主な取組	特徴
日本	学校での保健教育、薬物乱用防止教室、専門家・警察・学校薬剤師等との連携、啓発資料の活用	学校教育を中心に、正しい知識と危険回避能力を育成。中・高校では薬物乱用防止教室を年1回実施することが求められている。
アメリカ	学校での健康教育、たばこ使用防止教育、家族との連携、学校環境の改善、相談・支援	知識＋意思決定・拒否スキル＋家庭・学校・地域の連携を重視。学校での健康教育と保健サービス、安心できる学校環境を組み合わせる取組も行われている。
中国	喫煙・飲酒・薬物等についての健康教育や調査、受動喫煙防止等	若者の喫煙や受動喫煙が課題となっており、健康調査を活用して若者のリスク行動を把握し、対策につなげている。
ロシア	喫煙・飲酒等に関する規制、啓発・健康教育、薬物乱用防止対策	教育だけでなく、販売・利用等を規制する社会的な対策と健康啓発を組み合わせている。
フランス	たばこの広告・販売等への規制、禁煙支援、学校等での予防教育	広告規制、価格・税、禁煙支援、公共空間の環境整備など、社会環境からの予防を重視。学校での情報提供、個別相談、継続支援を組み合わせている。
イギリス	学校での健康教育、学校看護職等による支援、喫煙・飲酒・薬物への予防教育、規制強化	教育＋早期支援＋社会環境への働きかけを重視。2026年には、2009年以降生まれの人へのたばこ販売を禁止する法律が成立した。

◆本時の学習評価＜思考・判断・表現＞（授業後：Google スプレッドシートの確認）

喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題解決の方法について話し合うなど意見をまとめ、適切に整理していることについて確認する。

オ　学習の進め方や学習評価の工夫

(ｱ) 生徒が主体的に課題を解決する学習の進め方

本時では、個人及び社会生活における課題や、我が国及び諸外国の健康について課題を発見するとともに、我が国における課題の解決の方法について ICT を活用するなどして学習活動に取り組むよう工夫している。

(ｲ) 自らの学びや変容を自覚できる学習評価の工夫

「思考・判断・表現」を適切に評価するために、グループワークにおいて健康課題を基に解決方法を探究し、我が国の課題についてまとめるなどして、次時の発表への見通しをもたせている。そのため、グループで作成した Google スプレッドシートを確認し、生徒の個人及びグループの学びの変容を見取ることとしている。

(ｳ) 「思考力・判断力・表現力等」の評価例

【評価規準】

喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、我が国のこれまでの取組を踏まえ、個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析し、自他や社会の課題の解決方法を考え、道筋を立てて説明することができるようにする。

【評価がＣとなる生徒に対する手立て】

本時のねらいを再確認させ、１人１台端末を活用して、我が国と諸外国の健康問題や取組の違いを比較し、個人への働きかけと社会環境づくりの視点から考えられるよう支援する。また、プロンプトの作成方法や考える視点を示し、課題の解決方法をワークシートに記述し、説明できるよう支援する。

※評価が「Ｃ」となる生徒

喫煙、飲酒、薬物乱用防止と健康について、我が国のこれまでの取組を踏まえ、個人への働きかけと社会環境づくりの面から分析したり、自他や社会の課題の解決方法を考えたりすることが十分にできず、自分の考えをワークシートに記述したり、道筋を立てて説明したりすることが難しい生徒。

４　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

図４は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、『学習者』と『授業者』からの視点をまとめたものであり、主体的・対話的で深い学びを実現するために『授業者』が何に取り組めばよいのかを明示的に示したものである。

例えば、『授業者』は「具体物や例を提示して引きつける」ことを通して、『学習者』が「学ぶことに興味や関心をもつ」ことや、『学習者』が「見通しをもつ」ために、『授業者』は「既習事項を振り返る」ことや「生徒が自ら本時の目標をつかむようにする」などの視点が必要であると考えられる。

このように、図４における視点については、主体的・対話的で深い学びを実現するために、『学習者』と『授業者』の視点のどちらか片方が重要というものではなく、双方の視点の往還を通して実現していくことが重要である。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	□学ぶことに興味や関心を持つ □自己のキャリア形成の方向性と関連付ける □見通しをもつ □粘り強く取り組む □自己の学習活動を振り返って次につなげる □生涯にわたって継続して運動に親しむ態度（公正、協力、責任、参画、共生など）を身に付ける	□既習事項を振り返る □具体物や例を提示して引きつける □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する □生徒が自ら本時の目標をつかむようにする □学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる □生徒が自分の考えを持つようにする □生徒の思考を見守る □生徒の思考に即した授業展開を考える □生徒の考えを生かしてまとめる □その日の学びを振り返る □新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	□生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める □教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める □地域の人など多様な他者との対話やICT等の活用を通じ、自己の考えを広げ深める □先哲の考え方を手掛かりに考える	□思考を交流させる □交流を通じて思考を広げる □協働して問題解決する □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す □ICTや生成AI等を活用して、多様な意見に触れさせる
深い学び	□各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる □知識を相互に関連付けてより深く理解する □情報を精査して考えを形成する □問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう □実生活、実社会と関連付けて理解する □「する、みる、支える、知る」の視点から運動やスポーツを深く理解する	□資質・能力を焦点化する（身に付けさせたい力を明確にする） □単元や各授業の目標を把握する □ねらいを達成した生徒の姿を具現化する □教材の価値を把握する □単元及び各時間の計画を立てる □目標の達成状況を評価する

図４　主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に一部加筆

Topic　子どもたちの現代的な健康課題について

1　子どもたちの現代的な健康課題とは

近年では、情報化の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、子どもたちがこれらの情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等を徹底することが課題となっている。

2　性に関する指導について

○　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編

思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。

○　学校教育活動全体を通じた指導について

学校全体で共通理解を図りつつ、保健体育科などの関連する教科、特別活動等において、発達の段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、相互に関連付けて指導することが重要である。また、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

3　薬物乱用（オーバードーズ）について

○　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編

薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。

○　学校教育活動全体を通じた指導について

学校における薬物乱用防止教育は、保健体育科の授業、特別活動、総合的な探究の時間等の学校の教育活動全体を通じて指導が行われることが大切である。

生徒が薬物乱用の危険性・有害性のみならず、薬物乱用は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手しやすさなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを理解するとともに、正しく判断し行動できるようにするため、指導方法の工夫が行われることが重要である。